環境特論II

グリーンアジア国際リーダー教育センター 助教
渡辺 貴史

「環境特論II」は、グリーンアジアが開講した授業と、GCOE「新炭素資源学」の主催によって行われた授業とを合わせて2単位を授与する科目である。これらの授業は、英語による議論を通じて、自分の専門分野だけでなく他分野の理解を深めることを目的としている。

このうちグリーンアジアの講義は、2014年12月15日と22日の2回に分けて行われた。各回とも私が担当し、以下の構成で進行した。まず、当日の講義のテーマを出題し、それについての概要を説明した。次いで、学生を複数のグループに分け、与えられたテーマについて英語による議論をさせた。その後、各グループより代表者2名を選出して発表、質疑応答を行った。

第1回では、「科学的事実は世界の真理に一致するのか」という問いを巡って考察と議論を重ねた。科学哲学の領域からの比較的現代的なテーマに、当初学生たちは戸惑っていた様子であったが、議論を重ねるうちに課題が次第に明白となり理解も深まったようで、その後は真剣な議論が続けられた。

第2回では、「将来科学者は環境問題を解決できるだろうか」という問いについて考察と議論を行った。科学者となることを将来の目標として研鑽を積んでいる学生たちには、この課題は身近な問題として感じられたようで、各グループはそれぞれ独自の視点からこの問いに答えていた。また、その後の総括的な議論においては、前回の科学哲学の問題に立ち返って2回の授業全体にかかわるより根本的な問題を探るような討論が自発的に続いた。

英語による議論を主体とする授業であったが、外国人留学生たちは何の違和感もなく参加していたように思われる。しかしながら、日本人学生にとっては、まず英語での議論が難しい上に、専門外の分野についての知識不足などもあって、かなり苦労していたように見受けられた。それでも一生懸命に議論をしようと努力する姿が見られた。

この授業は、英語によるコミュニケーション能力を涵養することを目的の一つとしているが、しかしより本質的には、自ら考え、それをもとに他者と議論を重ねて、問題をより深く考え理解する能力を身につけることにあると思われる。今回の授業は、これら二つの目的がうまく噛み合って展開したように思われた。